



川崎競馬倶楽部



SINCE 1990



<http://www.kawasakikikeiba.com>

〒212-0002 川崎市幸区小向仲野町15-4 川崎競馬倶楽部 2008年9・10月合併号

★ダービー馬ドリームスカイの秋★

波乱のダービーから4ヶ月



東京ダービーのあの感動から早くも4ヶ月が過ぎようとしている。直線決めた怒濤の追い込み。有力馬が前でもがく横をするりと伸びたドリームスカイがダービーゴールを先頭で駆け抜けた。

平和賞は2着だったもののクラウンカップ惨敗、東京湾カップ4着という成績から伏兵視され10番人気。第54回東京ダービーは単勝4880円、3連単ではなんと3250920円という大波乱だった。

つづくジャパンダービーには『ダービー馬』として迎え撃つ立場となったドリームスカイ。JRAのサクセスブロックが圧勝するハイレベルな闘いのなか、中団から早めじわと進出し直線持ち前の伸び脚を發揮して4着まで迫った。

ダービーではテン乗りで半信半疑だった戸崎圭太ジョッキーもその実力がフロックでないことを確認したという。

「これまでの成績からノーマークだったかもしれないけど、まずはダービーを目標にやって来たから勝ったときにはホント嬉しかった。競馬の神様ありがとうと思ったよ。調教も自分でつけているが改めてスカイにはよくあの調教に耐えてくれたと感謝してる。一つ一つ階段を昇るように調教をハードにして3歳馬にしては過酷なくらい攻めてきた。ダービーそしてジャパンダービーと力強さが増していくのがわかったよ」と樋口富男厩務員。調教すべてを担っている一番の理解者と言っていいたいだろう。

ジャパンダートダービーのあと、ご褒美とリフレッシュを兼ねてドリームスカイは休養に出された。



樋口厩務員とスカイ

休養を終えたドリームスカイが樋口さんの元に帰ってきたのは9月17日の朝。

「輸送の影響もあるだろうが少し細く映る気がしたね。元々スカイはカイバを食べさせるのに苦労する 때가あってね。ほら、顎っぱりが小さいでしょ。カイバを置かれればとりあえず口は付けるから何回にも分けて与えていた。これ、ホントは企業秘密なんだけど整腸のためにキャベツをあげたり、リンゴ酢与えたり、いろいろ工夫してきたつもり。どう？ダービー馬に見える?? どうも甘えてばかりで、ダービー馬っていう賞

ドリームスカイ
 父 スウェプトオーヴァーボード
 母 コクサイリボン
 牡 3歳 黒鹿毛
 馬主 (株)ドリームターフ
 調教師 内田勝義
 騎手 戸崎圭太
 厩務員 樋口富男
 生産者 新冠・堂島牧場

禄がないんだよね。馬自身にもっとわかってもらわないと(笑)」。

樋口さんは岐阜県の出身。笠松競馬で騎手として15年、調教師として10年のキャリアの持ち主。800勝の勝ち鞍をあげ、ロングニュートリノに騎乗した東海大賞典を制している。「騎手としては玄人好みなタイプだったかな。デビュー3年目からはベスト10を外れたことなかった」という腕達者だった。厩舎を解散し、厩務員として再出発するために川崎にやって来たのは2004年6月。まる4年にしてダービー馬と出会ったことになる。

内田勝義調教師の理解の元、樋口さんの様々なキャリアが集大成されて仕上げられたのがドリームスカイと言えるだろう。

「脚元は丈夫だし、内蔵も強い。皮膚が薄くて滑らかな馬だな」というのが最初見て、触った時の印象だった。精神面はまだ子供っぽいところがあるし完成するのはこれからだと思う。馬体は10日くらいで戻ってきたね。帰ってきてからすでに一本やっているが、ダービー時から比べるとまだ六分という感じ。乗り出してからカイバも食べるようになってきている。普段はこうして甘えん坊だが乗ったらガラリと変わる。教えたことは覚えるしオンオフの切り替えができる賢い馬。これからは古馬相手にもなるし、クリアするためにもまたハードな調教で攻めていこうと考えている。俺にとってスカイは『夢を与えてくれる馬』。この馬でどこまでやれるか挑戦していきたい」。



樋口さんに甘えるスカイ

ドリームスカイの故郷・堂島牧場

レポート by Mr.O



ドリームスカイの生まれ故郷は北海道新冠町の堂島牧場。サラブレッド銀座を北上した古岸というところにあります。高橋さんご夫婦が経営していますが、ここは中央競馬でかつて活躍したドージマムテキも生産され、現在は余生を送っていることから「ドージマ」という冠を頂いたことが牧場名の由来になっています。ドリームスカイの仔馬の時の印象をうかがうと「とにかく手のかからない仔で独立精神が旺盛。当時は繁殖牝馬が3頭いて、うちの牧場では同世代で唯一の牡馬。苦労したことといえば、1歳時に球節に異常があった時くらいですね」と高橋さん。母のクサイリボンがドージマムテキの1つ下の妹ということもあって芝向きではと思えたので、当初は中央に入厩させるプランもあったそうです。母のクサイリボンは残念ながらドリームスカイの次の仔を出産した2日後に亡くなってしまったとのこと。ドリームスカイの兄弟馬には、現在、岩手競馬に在籍しているリボハーンという馬がいます。またドリームスカイの1つ上の姉のドリームレインボー(父カコーシーズ)は現役時代を八木正喜厩舎で過ごし1勝を挙げたのち現在は繁殖として牧場に戻っています。

呼び名 スカイ
好きな食べ物 パナナ
クセ 甘えすぎ。
からだにブラシをかける時だけ嫌がる。

特徴



黒鹿毛なのに
なぜか尻尾だけが白い。母のクサイリボンが芦毛だったためらしい。

ドリームスカイの戦列復帰プランは当初10月18日の中央遠征が組まれていた。芝コースへの挑戦になるが「時計を出した動きは悪くないが、細くなって戻ってきたこともあり、もう少し様子を見て、馬のカラダと相談してから復帰戦を決めたいと思っている」と内田勝義調教師。ダービー馬ドリームスカイがその名を高める秋はもう少し先になりそうだ。



川崎競馬 グルメの秋 2008

秋だ～、グルメだ～！というわけで、競馬場グルメ満足度では競馬界屈指の川崎競馬場の味覚のなかでも、この秋イチ押しの美味しいものをピックアップしてご紹介しちゃいましょう。

川崎競馬場にはたくさんの関係者が働いていますが、これは大満足！とリピーター率ナンバー1になっているメニューがあります。2号館1階にあるラーメン坊の棒々鶏定食。ボリューム感たっぷりに盛られた蒸し鶏にピリ辛ネギ醤油ソースがかかっているのですが、ここにライスとスープ、漬け物が付いて800円。辛めのソースになっているのでビールの肴にもぴったり。単品(600円)でオーダーされる人も多いといえます。

箸でひとつまみすると中からさっぱりとした千切りきゅうりが出てきて、シャキシャキとした歯応えも合わせて楽しめます。男性も納得のボリューム感。そして女性には美肌の特効薬といわれるコラーゲンを摂ることができるのはうれしいですね。

ラーメン坊は中華街出身のcock長のレシピに基づいているだけあって、競馬の合間にちょっと軽く…と侮ってはいけない本格中華。51種類もあるメニューがずらり並びます。麺類も充実しています。



HAPPY BIRTHDAY 10月生れ

前住和寿騎手(15日) 稲垣純緒調教師(3日) 津久井淳厩務員(4日)
本田博文厩務員(7日) 西田秀男厩務員(9日) 鈴木義久調教師補佐
(10日) 原喜久夫厩務員(10日) 長谷川蓮太郎調教師(14日)
飯高雄一厩務員(15日) 鈴木秀和厩務員(18日) 佐藤政光厩務員
(19日) 原三男調教師(24日) 甲斐年光厩務員(24日) 尾上慶久
厩務員(24日) 伊東康正厩務員(30日) 山元義伴厩務員(30日)
加藤正臣厩務員(31日)

本田 博文 厩務員 <鈴木敏一厩舎>



—昨年からのこのコーナーへの登場を切望してくださっていた本田博文厩務員。昨年は病気のため入院中ということもあり、今年待ちに待った登場となった。

本田厩務員の出身は滋賀県の栗東。祖父の代から厩務員という家系で、まさに競馬一家に生まれた。祖父は京都競馬場の繋駕(40年程前までおこなわれていた競馬の一種)の厩務員で、同じく京都競馬場で仕事をされていた祖母と出会い結婚されたという、ロマンスも聞かせてもらった。実家はトレセン内ではなかったものの、父・保男さんが栗東トレセンで厩務員をしていたため幼い頃から馬を身近に感じて育った。

もちろん騎手になるということも考えていたこともあり、現在中央で活躍している渡辺薫彦騎手、福永祐一騎手、池添謙一騎手たちも通っていたトレセン内の乗馬クラブに小5から通っていたという。初めて馬に乗った頃は、落とされたりもして恐かったそうだ。夏休みには父の仕事を手伝い、馬に運動させたりもしていた。中学時代に身長が伸びてしまったため騎手になるという夢は諦めたが、馬に関わる仕事に就くことは自然な流れであったようで、中学を卒業して現在のノーザンファームの前進である社台ファームで牧場の仕事を始めた。

牧場では一通りの仕事をしたそうだが、初めの仕事は繁殖で、種付けのためにその牧場に馬を連れて行ったりもした。栗東も雪が降ることは多いので寒さには慣れていたが、北海道の冬は「寒いというより痛かった」ようだ。いつもは呼ぶと戻って来る繁殖牝馬も、吹雪の日には呼んでも聞こえないため、胸ぐらまでの積雪の中、馬を連れ戻しに行くのが大変だったというエピソードも聞かせてくれた。社台ファームでは7、8年仕事をしてきたそうだが、後半の4年程は宮城県にある山元トレセンで現役の競走馬に携わり、牧場の馬との違いを実感したりした。その頃、開業するためスタッフを探していた山崎尋美現調教師に誘われ、川崎へ来るきっかけとなった。

再び本田家の話に戻るが、本田厩務員は3人兄弟の三男。兄2人も中央の厩務員で、長男は栗東・安田伊佐夫厩舎で今年の重賞にも出走した3歳馬シャイニングデイを担当しているとのこと。次男も同じく厩務員で、本田厩務員も電話でよく馬の相談をしたりしていたが、残念ながら7月に水難事故のため亡くなられたそうだ。

その次男であるお兄さんが先に働いていたこともあり、山元トレセンからいわき市にある馬の温泉施設に仕事場を移した。そこで新たな経験を積んだ後、それまで中央の側で仕事をしていたので多少悩みはしたが山崎調教師の誘いを受け川崎に来る決意をする。

川崎での厩務員生活も、多くの馬に携わってきた本田厩務員にとってはそれほど違和感を感じなかったようだ。山崎厩舎からその後いくつかの厩舎で厩務員としての腕を磨き、現在の鈴木敏一厩舎に来て約2年が経ち、今の担当馬は3頭おり自分で調教にも乗っている。「仕事が趣味」と話し、仕事をする上で特に気にしていることは馬の仕事で、表情や様子を見て馬の変化に気づけるように心がけているそうだ。また、「今まで担当した馬はすべて覚えている」という言葉から、彼が1頭1頭に熱い想いで接してきたことが感じられた。

冒頭でも触れたように昨年、肝臓の病気で入院したため、お酒は好きだが今は禁酒しているそう。誕生日の予定は、ラブラドルの愛犬ベックと過ごすとのことで、普段も休みの日は散歩に連れて行ったりするなど、馬だけでなく犬に対しても愛情を注いでいることがうかがえる。

将来の夢を模索中という本田厩務員だが、目標とする厩務員の姿は6年前に亡くなられた父の保男さんと語ってくれた。その目標に近づくとして、担当する2歳馬アルテローザの初勝利に期待したい。

HAPPY BIRTHDAY 9月生れ

郷間勇太騎手(2日) 田村豫志雄調教師(3日) 鳥飼春弥調教師(5日) 三浦幸樹厩務員(8日) 岩城方元騎手(12日) 佐々木睦男厩務員(12日) 安達啓太厩務員(14日) 福有稔厩務員(15日) 八木仁調教師(16日) 紺野敏明厩務員(18日) 今川政男厩務員(20日) 足立勝久調教師(21日) 岡田徹厩務員(21日) 田崎三雄厩務員(22日) 山下政雄厩務員(24日) 山田正実調教師(25日) 高松良行厩務員(25日) 平田正一厩務員(28日) 増田充宏騎手(30日)

安達 啓太 厩務員 <吉橋淳一厩舎>



川崎競馬の中でも一番歴史の新しい吉橋淳一厩舎。その厩舎に今年4月、新たなメンバーが加わった。それが安達啓太厩務員である。

フグで有名な山口県下関市出身。小さい頃からサッカーをやっていた事もあり、スポーツ好きの少年だったようだ。少年時代

は地元で競艇場があった影響か、競艇の選手に憧れていたらしい。

高校を卒業後は花市場やパチンコ屋で働いたが、「どれも一生続ける仕事ではないと思って。」一念発起し、千葉県にある乗馬専門学校に入学したのは今年の事。もちろんそれ以前は馬に触った事すらなかったそうだ。

その専門学校を卒業して就職するときにちょうどスタッフを募集していたのがここ吉橋厩舎だったそうで、まさに運命の出会いと言えるだろう。

初めて馬に触ってからわずか一年ちょっとで競走馬の世話をするのは大変なようだ。しかも学校時代は乗馬用の馬に乗っていたため、「競走馬とは全然違う。」と言う。「乗馬は大人しいけれど、競走馬はそうではないですね。」

そして「今はまだ無我夢中。」だそうだ。現在は赤帽(調教厩務員)の試験に向けて勉強中。毎日朝は3時から9時過ぎまで馬の世話をしている。

担当馬は、アリンスクイーンとカズサハイウェイ、ハギノセレクションの3頭持ち。ただ残念な事にハギノセレクションは脚を痛めて引退が決まってしまった。

「まだ素人同然だから。」と謙遜するが、前向きな姿勢はとても感じがいい。「先生に言われた事はちゃんとやるようにしています。細かい指示もよく聞いて実行しています。」と何事も学んで吸収しようという気持ちが窺える。

たまにある休みの日は、厩舎の人たちとフットサルをしたり、年下の彼女と映画を観に行ったりして過ごすそうだ。最近観たオススメの映画は、「デトロイト・メタル・シティ」との事で、「とにかく楽しいし、笑える。」と太鼓判を押してくれた。

9月14日で24歳になる安達さん。パースデー当日も普段と変わりなく、「普通に仕事をする。」そうだが、「彼女の家でケーキを食べる予定。」とも明かしてくれた。その彼女の話をする安達さんの表情がとても優しく素敵で、聞いているこちらまで自然と温かい気持ちにさせられる。

まだ始まったばかりの厩務員生活であるが、「今までの仕事と全然違う。」そうで、「やった分だけ返ってくるから。」とかなりのやりがいを感じているようだ。

「ここが潰れない限りずっといます。」ときっぱり宣言してくれた安達さん。まずは赤帽目指して挑戦中である。

おつかれさま

平成20年8月退厩馬

厩舎名	馬名	性	齡	退厩先	退厩理由
村田六郎	ダイゼンシン		牡 3	兵庫県	転厩